

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

大谷 弥生

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所見】

まず初めに、藤枝市の重点戦略「暮らしの基本」4K（健康・教育・環境・危機管理）政策と銘打って実施しているだけあって健康福祉部内に健康企画課を設置している。その上、この企画課が中心となり、18課と連携をして市民福祉の向上を目指している。そして、「市民が、幸せな健康生活を少しでも長く続けられるまち」として特定健康診査受診率が静岡県内で人口10万人以上の市の部で第1位（49.6%/2015年）、内臓脂肪症候群（メタボ率）が低く、その上、がん検診受診率も全国平均以上で、本当にうらやましく思った。

また、足利市と異なり、特定健診診察券を各地区にいる保健委員が配布をし、市がバスの送迎もしているという。特に、保健委員は2年任期でなおかつ交代制となっている。足利市には、生活習慣改善推進委員がいるが、任期はない。任期があるというのは、多くの方に保健委員として活動していただく機会が生まれ、活動を通し、御自身の健康意識向上にもつながっていくと思う。どんなに行政のみが頑張っても、市民一人一人が自分の健康を大切に思ってくれるようになることが最重要で、インセンティブの強化が必要だと改めて感じた。

また、18歳以上の若年層を対象とした「ふじえだマイレージ」については、ポイントを集めるとカードがもらえ、協力店でサービスが受けられる。サービス店舗は若年層に魅力を感じさせることができる店舗を心掛けたとあって、シネマや居酒屋など充実している。マイレージは地域通貨ともなり、地域商店街の活性化にもつながっていく。また、健康アプリについては、初期投資がおおよそ1,200万円かかる。若い世代には興味を持ってもらえそうなアプリもみずから開発し、400万円に抑えたそうである。気になるランニングコストはバーナー広告収入を活用し、公費投入を極力抑えるような仕組みづくりも勉強になった。

次なる見解の方向性として、企業を巻き込んだ取り組みがあるようで、これからは企業の事業活動を通して自主的に社会貢献する責任もあるCSRで、健康経営の推進（企業生産性の向上）を今後取り入れていくという。足利市もその点に目を向けていくことも必要だと感じた。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて

【所見】

まず初めに、国分寺駅周辺は駅の再開発が行われており、今後も若い世帯の移住定住が期待できるようなにぎわいがあった。しかし、にぎわいもあるが自然や歴史的環境に恵まれたまちであり、市役所から国分寺市プレイステーションに向かう車窓からは、緑や果樹園等が目にとまった。

さらに、国分寺市プレイステーションは柿の果樹園だったところを子供たちがゆったりと自由に遊べるように開拓された場所であった。視察時間が午後であったにもかかわらず、2～3歳の子を連れた親子が楽しそうに遊んでいた。

利用していた1人のお母さんに出身地を伺うと「青森県」との返答があり、子供のころから元々住んでいる方よりも、移住して住まわれる方が多いのかなどの印象も持った。結婚し、知り合いも少ない土地で子育てをする若い世代には、プレイステーションのような場所は、きっと親のよりどころにもなっているのだろう。悩んだときに相談できる仲間と出会い、母にも子にも友達ができる場があるというのは、最高の子育て支援だと思う。

そして何より、プレイステーションを利用していたお一人が現在は認定NPO法人格をとり、「冒険遊び場の会」として国分寺市から委託を受けて運営していることもすばらしい。親として自分の子育てが終了したら、これから子育てをする親子のために子育てを支援する。支援を受けた側から支援をする側へのよい循環があれば、支え合いの仕組みにもなる。

さらに「ここに来たいから、子供を2人、3人と産む人がいます。」との話も、少子化対策にもつながっていて、うらやましく思った。そして、プレイリーダーと呼ばれる子供の遊びを支える大人は、かつてここで遊んでいた子供たちが成人し、ボランティアとして活動してくれているというこの循環もすばらしい。約30名のプレイリーダーが登録し、交代で活動している。公園にプレイリーダーがいれば、人が集まる。足利市の公園も多くの子供たちに利用してほしいと思う。野外で思いっきり遊び汗をかく。子供のころにしかできないたくさんの遊びを、思いっきり空の下で満喫してから大人になってほしいと思う。そして、その場所にボランティアとして、また親として戻ってきてくれたら、支え合いのよい循環は続いていくだろう。